

静岡県中西部発達障害者支援センター事業報告

1 事業実績

※別紙のとおり

2 これまでの運営の総括及び次年度以降の方向性

これまでの運営総括	<p>前年度の実施体制を継続しながら、市町関係機関と協働することで相互の支援体制の強化を図っている。地域における訪問相談により協働する機会が増えたことで、連携状況がより構築されつつある。</p> <p>人材育成研修等においても対面開催が増加し効果があらわれている。</p> <p>家族等支援事業は2年目となり、メンターの派遣や地域のピアサポート体制へのアプローチにおいてモデル地域における展開がされた。</p>
次年度以降の方向性	<p>引き続きこれまでの運営体制を継続しながら地域における体制強化のためのセンターのハブ的機能の役割をベースに地域の底上げを図っていく。</p> <p>ケース相談においては、年齢別、障害特性別等の傾向を分析しながら、地域への波及や研修提供の根拠につなげていく。</p> <p>家族等支援事業においては、市町にその認識が乏しい環境も確認されたことから、次期障害福祉計画策定とも絡めながら、県とも確認し市町発信を進めていく。</p>

3 相談支援の事例(他機関と連携した好事例・困難事例等)

(好事例)

相談者	/
ケース概要	
連携機関	
支援概要	
ポイント	

(困難事例)

相談者	/
ケース概要	
連携機関	
支援概要	
ポイント	

4 各種研修、普及啓発等

(1) 各種研修（主なものを抽出）

研修名	対象者	参加者数
乳幼児期支援研修	保健師、幼児期支援者、行政等	48人
研修の概要	講義及びグループワークにより、発達スクリーニング検査のポイントや療育支援の具体を通して、乳幼児期支援に関わる支援者の共通理解や市町相互の実践を確認する	
期待する効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・市町における早期支援の取り組みや効果的実践の共有や科学的根拠のある先進事例から、自地域の早期支援体制の機能強化が図られる ・実施後の実践報告会を開催し、市町における取組を管内行政機関が共有することで、自地域へのフィードバックに寄与する 	

研修名	対象者	参加者数
支援を要する学生への包括的サポートを考える	高等教育機関教員等	25人
研修の概要	大阪大学における学生支援と合理的配慮の実践、県内大学及び発達障害者支援センターにおける学生支援と機関連携の取り組み紹介、発達障害大学生の母（ペアレントメンター）による体験談を通し、高等教育機関における支援の視点や対応について学ぶ	
期待する効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関間における支援連携や関係構築 ・学外連携や社会資源の理解と活用の視点 	

研修名	対象者	参加者数
ピアサポート支援者研修	居場所支援事業者、ボラ	21人
研修の概要	青年期の発達障害者の居場所支援の展開を予定している機関に対し、理解や対応の基礎的視点を提供	
期待する効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における理解促進と居場所支援の拡充 	

※研修講師派遣

静岡県警察学校・県立磐田学園・静岡県総合教育センター・強度行動障害支援者研修等

(2) 普及啓発事業等

取組名	対象者	取組概要
世界自閉症啓発デーおよび発達障害啓発週間関連	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・Jリーグ（磐田・藤枝）及びリーグワン（静岡）ホームゲームでの啓発イベント ・金融機関窓口への啓発画像の掲出 ・管内市町区図書館における特集コーナーの設置
一般広報	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・市町広報誌への掲載 ・HPにおける情報発信

5 関係機関との連携

静岡県中西部発達障害者支援センター連絡協議会

構成員	当事者団体、医療機関、児童相談所、教育機関、保育園団体、障害福祉団体、相談支援事業所、就労関係機関、行政等	
開催日	令和4年6月23日	令和4年2月3日
協議事項	事業報告 意見交換 ・ライフステージにおける支援課題について ・乳幼児期支援について ・学生連携支援について 等	事業報告 意見交換 ・ライフステージにおける相談支援体制について ・家族等支援事業について 等

中西部連絡会

構成員	志太榛原圏域及び中東遠圏域を担当する、圏域スーパーバイザー、就業・生活支援センター、発達障害者支援コーディネーター	
開催日	5月	3月（予定）
協議事項	各圏域における事業実施体制及び地域課題の共有と協働実践の検討	各圏域の事業実施内容の共有と次年度の共同実践の計画

（その他）

- ・発達障害者支援コーディネーター連絡会
- ・志太榛原圏域自立支援推進会議
- ・中東遠圏域自立支援協議会 等

(1) 医療関係

今年度の状況 （自己評価）	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース支援において主治医、地域連携室等とタイムリーかつ緊密な連携を図ることができた ・ケースに応じ、同行受診支援や支援機関による受診相談を実施 ・県立医療機関児童精神科医からの定期的なコンサルテーションを受け、医療福祉連携のセンター機能を確認
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きケースを通じた機関連携を展開していく ・コンサルテーションの継続実施

(2) 保健・福祉関係

今年度の状況 （自己評価）	<ul style="list-style-type: none"> ・市町発達支援連絡会に参画しながら、支援システム協議やケース検討を実施 ・市町協議会に参画しながら、福祉事業所との関係強化や地域の相談支援体制について協働的に協議をすすめる ・個別ケースを通じた連携、相談、支援会議の実施 ・市町主催相談会、巡回相談の参加
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズに応じながら、体制強化のための後方支援を中心に展開していく

(3) 教育関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none">・圏域協議会の場を通し、各地域教育委員会及び特別支援教育コーディネーターとの教育福祉連携に対する協議を実施・特別支援学校コーディネーター等との意見交換会に参画し、ニーズ把握や課題を抽出、共有する・高等教育機関との包括的サポート連絡会を開催し、教育機関が抱える課題を共有しながら、各機関の体制を把握する・個別ケースを通じた連携、相談、支援会議の実施
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none">・市町教育関係とは、ケース支援を含めさらなる連携強化を図っていく・高等学校、大学機関との連携強化を図るための協議の機会を検討していく

(4) 労働関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none">・就業・生活支援センターとの定期的な連絡会、協議会を通し相互の情報や課題、支援手法について共有する・ケース支援を通し、HW トータルサポーター、サポートステーション、市町就労支援センター、障害者職業センターとタイムリーかつ緊密な連携を図ることができた
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none">・就業・生活支援センターとの共同研修により、企業への理解や他機関連携の情報発信を図る・引き続きケースを通じた連携を図っていく

(5) 当事者団体関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none">・当事者団体（自閉症協会、きんもくせいの会、静岡トインクル、育成会）との定期的な意見交換会の実施により、ニーズの把握、相互の役割等について理解を図る・世界自閉症啓発デーイベントの協働実施と、Jリーグゲームへの試合観戦の実施
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none">・引き続き、意見交換会を中心にニーズを把握しながら、連携を図っていく

(6) 市町(行政機関)

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none">・地域協議会へ参画しながら、発達障害支援の体制把握と機能強化を図る・圏域協議会市町部会への参画により、相談支援体制における発達障害支援の課題について協議する・世界自閉症啓発デーの実施状況調査と、活動拡大のための支援を展開する・管内 13 市町中 13 市町で地域支援システムの体制評価及びモニタリングを実施
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none">・引き続き、協議会への参画を通し市町発達支援システムの体制整備に向けたバックアップを展開・地域支援システムの体制評価の継続的なモニタリングを実施